

僕たちはおもしろい時代を生きている

大島 武生氏 (高校70期)



2018年 京都大学農学部地域環境工学科入学
2021年4月～2022年3月 大学休学
ニホンミツバチ養蜂団体「京太のはちみつ」を立ち上げ、蜂蜜販売を開始
公共本棚や無料塾など、地域にあったらいいなを実験中

【高校時代の思い出】

京都大学の5回生(年生)になりました、70期の大島武生です。
立高時代を振り返ると、部室前でやった流しそうめん、つつい劇の脚本を引き受けてしまった文化祭、部活の引退後に河原で眺めた青空などが思い返されます。まだまだ視野は狭かったけれど、目の前のことには力を尽くして取り組んだ3年間だったと思います。

【大学休学】



無料塾KUMANの外遊びの風景

僕は去年1年間大学を休学して、全国の農家巡りをしました。それは単純に田舎暮らしや自由な時間に憧れたからという理由もありますが、主には、自分は農学部生なのに、農業の実態を何も知らずに研究活動を始めてしまって良いのだろうか。地に足のついていない机上の空論を唱えることになってしまわないだろうか。というモヤモヤした思いがあったからでした。



巣から垂れ蜜を採る作業

それまで3年間の僕の交友関係は、同じ寮(熊野寮)に住む友人や学部のクラスメイト、バイト先の先輩くらいでしたが、この1年間は、チョコ好きが高じてカカオ豆分別機を自作するに至ったおっちゃんや、日本の将来を憂いて農家になったアメリカの大学卒の若者など、いろいろな人と会うことができ、自分の世界がものすごく広がりました。今までの20年間でも積みもっていた思い込みや固定観念が、どんどん相対化されていった感覚があり、不思議と心地よかったです。



熊野寮前に設置した公共本棚

休学期間中にはその他にも、養蜂団体や子供無料塾の立ち上げ、保津川下り船頭やラフティングガイドのお仕事、農家&学生猟師連携プロジェクトなどいろいろしていましたが、ここには書ききれないので省略します。

いろいろ実験するためにも、ギャップイヤーは本当におすすめですよ！

【僕のこれから】

一年経って復学して、研究活動に取り組み始めてみると、改めて自分は「学問」や「研究」よりも、土に触れ、仲間と共に描いた未来を創造していく活動の方が向いていると強く感じました。当初は大学院への進学を考えていましたが、いろいろ考えた末、結局僕は来年から、長崎県の農家へ「修行」(丁稚奉公?)をしに行くことに決めました。加速度的に失われつつある先人の知恵を、できる限り吸収していきたいと考えています。



和歌山県みなべ町で梅拾いのお手伝い

【夢】

皆さんには、将来の夢はありますか？

僕は最近、「夢」の本質はWhatではなくHowなのではないかと思っています。小・中学生の頃に書かされた「将来の夢」欄が小さすぎたせいか、僕らはつつい将来の夢を職業名で考える癖がついてしまっています。しかし、実はどんなふうに生きていきたいかというのが本当の「夢」なのであって、Whatはあくまで手段なのではないでしょうか。

僕の夢は、「先人たちの知恵を受け継ぎ、伝えていく生き方をする」とで、好きなフレーズは「行き当たりバッチリ」です。笑
この混沌とした時代に、みなさんが高校生のうちから夢を描き始められたら、とても素敵なことだと思います。